

南部町から広がる 草の根交流

—ハンリム大学ホームステイ事業—



いきいきサロン（北方）

アンニョンハセヨ！
ハンリム大学のみなさん

7月8日から17日までの10日間、今年も韓国ハンリム大学日本学科の学生3名が南部町でホームステイを行いました。

今回参加したのは、イ・ジハ（李志夏）さん、シン・コウン（申高恩）さん、キム・ミンジ（金玟志）さん。ホームステイ先は浜本纂（あつむ）さん一家（法勝寺）、遠藤忠明さん一家（早田）、雑賀邦雄さん一家（池野）の3組でした。

毎年10名程度の学生が参加しますが、今年は東日本大震災による福島原発の影響からか参加希望者が少なかったようです。

日本の文化を肌で感じたい

ハンリム大学とのホームステイ事業は、平成7年に旧西伯町が韓国から国際交流員としてホ・キョンチル（許敬七）さんを招いたのがきっかけでした。「身近な国・韓国」の理解を深めたいと考えていた町は、同年7月にホさんの出身地である江原道を訪問しました。



歓迎会で韓国語講座受講生のみなさんと一緒に歌いました

日本の文化、風習等を専攻する日本学科があるハンリム大学を訪問。「ぜひ日本の文化、日常生活などを肌で感じたい」という同大学の教授、学生らの要望により、町民主体のホームステイ事業を行うことになりました。

平成8年2月に第一回のホームステイ事業を実施し、ハンリム大学日本学科の教授1名、学生24名が参加。また同年7月には第二回目を実施し、以降毎年7月に学生だけのホームステイを行うことが恒例となりました。